

Book Review

月刊「デンタルハイジーン」別冊 その痛みに寄り添いたい！ 象牙質知覚過敏症

山本 寛 著



Reviewer

瀧本晃陽 Koyo Takimoto

(東京都・瀧本歯科医院)

AB判, 124頁
カラー
定価 3,850円
(本体 3,500円+税 10%)
医歯薬出版刊



本書は歯科衛生士向けに執筆されたものだが、すべての歯科医師にとって読むに値する一冊である。著者の山本寛先生は、筆者の恩師であり、歯学部学生や研修医への実技指導に長らくご尽力されており、日常臨床の基礎的知識をわかりやすく平易な解説で教えていただけることと、そのユーモアあふれる語り口から、学生や若手歯科医師からの人気も非常に高い先生である。

本書のメインピックである象牙質知覚過敏について、日常臨床において「歯がしみる」という患者の訴えにしばしば遭遇することは、一般歯科に携わるドクターであれば誰もがよく経験するところである。また、その病態が複数の病因によって生じることなどから、原因について正確に診断し、的確にその訴えを解決することは、臨床経験の長いドクターであってもそう容易なことではないだろう。

本書のタイトルに「象牙質知覚過敏」とあるため、内容が限定されていると

思われる向きもあるかもしれないが、第1章では象牙質知覚過敏と関連する tooth wear や歯の亀裂 (cracked tooth)、不可逆性歯髄炎との鑑別など、歯髄を原因とする痛みの診断全般にとって重要な基礎的知識が網羅されている。第2章の診査と第3章の治療においては、科学的背景に基づいた具体的な方法が記述されており、製品名などの具体的な情報も含めて、すぐにチェアサイドで応用できる術式が示されている。

その一方で、本書の内容は単に教科書的な記述にとどまらず、平易な表現で象牙質知覚過敏の病態と発生機序、診断とその対処について、科学的根拠に基づいてわかりやすく記述されている。なかでも注目すべきなのは、第4章において具体的に患者の訴えにどのように耳を傾けて、どのようにコミュニケーションをとるかまで解説がなされており、これこそまさに「教科書には載っていない」臨床知そのものである

といえる。患者とのコミュニケーションが重要な歯科衛生士にとっても非常に参考になる内容であり、また歯科医師も本書の内容を実践することで、歯科衛生士を通じて患者の訴えを適切に拾い上げるとことにより、結果的に患者満足も高めることができるだろう。

さらに、第5章と第6章においては、実際の症例提示とQ&A形式の解説によって、読者がさらに理解しやすい形で示されており、まさにチェアサイドにおける「座右」の一冊となっているといえる。

以上のように、本書は、歯髄における知覚神経の研究にも長らく携わられてきた研究歴とベテランの開業医として豊富な臨床経験を有する山本先生だからこそ、執筆可能な書籍であるといえよう。繰り返しになるが、歯科衛生士のみならず、願わくばすべての歯科医師、特に臨床経験の少ない若手歯科医師にこそ、ぜひ手に取っていただきたい一冊である。